

第 4 学年「理科」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

成果○これまでの経験を生かして、予想したり考察したりして、主体的に問題を解決しようとする態度が身に付いた。

○観察・実験などの活動を通して、基礎・基本的な知識や技能を身に付けることができた。

○自然の事物・現象の差異点や共通点を基に、問題に関心をもつ児童が増えた。

課題▼実験や検証したことを基に、新たな問いをもつところまでは至っていない。また、関心の幅を広げ、課題解決的に学ぼうとする力にも段階的な配慮が必要である。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 理科に対する自己肯定感を醸成する。（曖昧な自信「やってみようかな」の定着）
- ◆ 問題解決に資する科学的な見方や考え方を、学校として系統的に確実に育むこと。
- ◇ 自然科学に関する体験や情報、調べ学習を充実させ、その有用性を意識させ態度化を図る。

具体的な改善策

*凡例 ●■：昨年度において手ごたえを感じているところ

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 単元や時間の自己の学習問題を明確に意識させ、自分事として解決するスパイラルを進める。
- 問題解決の過程を見通す活動や自らの学びを振り返る活動を常時行う。

言語活動の工夫

- 学習事項の発信を積極的に行い、オーラルなコミュニケーション力を育む。
- 文字や表、グラフ、情報を思考ツールで整理し、「思考の見える化」を進める。

ICT活用の工夫

- 児童の学習ツール、特に思考・表現のツールとしてその活用を図る。
- 毎時間の学習の振り返りの中で、追加情報を検索するようにする。

課題解決力育成の工夫

- 学習過程の構造化と見える化を進める。問題解決スパイラルの徹底を図る。
- 対話や思考ツールを活用して、ロジックを確認し高める取り組みを進める。
- 理科学習の基礎となる自然体験の一層の充実を図る。そのために、新たな教具の利用や一人一栽培・一飼育活動の展開、外部関係機関との協働と見学の開発を進める。

達成目標

- 学習指導要録の評価において、A 評価を 2 割向上、C 評価を 2 割減少させる。
- 各種学習調査において、各観点ともに 3 ポイントの改善を図る。
- 理科学習を肯定的に捉える児童の割合 10 割を継続させる。